

地域防災への取組み～関谷小学校ブロックの防災～

■鎌倉市の概要

鎌倉市には歴史遺産や海水浴などで年間を通して多くの観光客が訪れます。市内にはJRが通り、鎌倉駅、北鎌倉駅、大船駅があり、鎌倉駅からは海沿いを通り江ノ島、藤沢と結ぶ江ノ電があり、大船駅からは江ノ島と結ぶ湘南モノレールがあります。人口は約17万人、市は市内を5つの区(鎌倉・深沢・腰越・大船・玉縄)に分けてそれぞれに支所があります。



■鎌倉市の防災対策

鎌倉市は「地域防災計画」を元に防災対策を行っており、津波ハザードマップや、土砂災害ハザードマップ、洪水・内水ハザードマップや防災情報などを一冊にまとめた「かまくら防災読本」などを市民に配布しています。また、沿岸地域では大津波が想定されているため、対策整備を進めるほか「津波シュミレーション動画」を作成して公開しています。

また、市内各地域で活動している自主防災組織(主に各自治町内会)の横の連携を図るため、鎌倉市自主防災組織連合会があり(加盟168組織:H29.4)、広報誌「鎌倉防災だより」の発行や研修会を行い、各種訓練への助成を行っています。特に、小学校区単位でブロックを形成し、地元の小学校を中心とした合同の「ブロック訓練」を推奨しています。

■関谷小学校ブロックとは

5つの行政区のうち、玉縄地域は大船駅の西口(観音様側)の地域で、駅前には境川支流の柏尾川が流れており、人口は約25000人、地域内には3つの小学校と中学校があります。その中の1つが関谷小学校です。

関谷小学校ブロックには戦国時代の後北条氏が築いた玉縄城址を囲むように11の自治町内会があり、藤沢市、横浜市と隣接しています。北方には国道1号線が走り、現在「高速横浜環状南線」と接続する「横浜湘南道路」の一部を区域内に建設中です。人口は約9000人強で内65歳以上の高齢者人口は3割です。関谷小学校のすぐ側には関谷川が流れており、過去にたびたび氾濫を起こしています。また、区域内は「鎌倉野菜」の産地である畑が広がり、土砂災害の危険箇所にも各所が指定されています。

■地域防災1 自治会の防災

2010年4月、城廻自治会(370世帯)の防災保全部の役員となり、前年度の役員さんから引継を受けたのですが、役員の任期は輪番で1年交代であることが大きく影響していて、自治会で所有している防災倉庫の中には動作しない資機材が多数あり、整備につかえる予算もほとんどない状況でした。そこで、本腰を入れて防災を進めて行くために、任期の無い防災担当者を作ることを計画し、11月には仲間を募り8名で「城廻自主防災隊」を結成しました。そして、年が明けた3月11日、東日本大震災が発生したのです。幸いこの地域では大きな被害は出なかったのですが、帰宅困難者となった仲間や、停電や物流の停滞などで少なからず生活に影響が出たことで、防災体制の早期構築が急務となりました。

私は、その後も自治会役員会に残れる制度を利用して防災保全部に留まり、ボランティア

集団だった

「城廻自主防災隊」を自治会と連携できるような体制づくりを行い、防災計画を立案し、お祭りなどの自治会活動に協力しながら、会員に啓蒙活動を行い、2012年には防災予算を正式に得ることができました。その後は鎌倉市の助成制度等を利用して、災害対策用の資機材や最低限度の水・食料を備蓄し続けております。

■地域防災 2 自治会同士の連携

2012年、KENWOODのデジタルトランシーバーのモニター募集に当選して、自治会内でトランシーバーの通信訓練を行いました。その際、地域の避難所である関谷小学校と自治会エリア間でも通信訓練を行いました。なぜなら、私たちの自治会では在宅避難者が大多数であるという想定をしていたため、鎌倉市役所の災害対策本部とMCA無線でつながっている関谷小学校とトランシーバーで結ぶことが出来れば、情報の孤立化を防げるのではないかと考えたからです。結果は大変良好であったため、翌年実機を購入いたしました。

また、一つの自治会だけで防災体制を構築していくことの難しさを感じていたため、関谷小学校で宿泊訓練を計画し、近隣自治町内会に協力をいただいて実施しました。鎌倉市総合防災課の協力もあり、参集者の受付、炊出しなどを行い150名ほどの参加者と約60名の宿泊者でした。宿泊訓練では、参集自治町内会によって防災体制の進み方の差が大きく開いていることその他、数多くの教訓や検討課題がみつかりました。そこで、2013年7月トランシーバー等を利用して複数の自治町内会と災害時に情報の共有を行う為、合同で通信訓練を行いました。その結果、トランシーバーの有用性が実証され関谷小学校ブロック内の4つの自治会がトランシーバーを購入し、さらに加入自治町内会を増やし、平時から防災上の課題を共有し、解決するために「災害時情報ネットワーク推進連絡会」(現「地域防災連絡会」という組織を結成し、定期的に会合を開き検討を行ってきました。

■地域防災 3 関小ブロック防災協議会の発足

2014年、2015年と何度も合同通信訓練を実施し、地域のイベントやお祭り、市が主催する訓練やイベントなどにも積極的に参加し、人と人とのつながりを大切にしてきた結果、2016年には、関谷小学校ブロック内11の自治町内会のうち10の自治町内会で「関小ブロック防災協議会」を結成できました。小学校の校長先生・教頭先生や、地域の福祉施設の防災担当者などにも参加いただいて、毎月会議を開催しています。「関小ブロック防災協議会」は、各自治町内会の会長(自治会毎に任期が異なる)からなる理事と、防災担当者を運営委員(任期なし)で構成され、継続的に防災活動を行うことができます。2016年からは毎年ブロックでの訓練を実施して連携を深めております。

2018年度は9月9日に実施いたしました。訓練は2部形式で行い、1部では各自治町内会から小学校までを集団で避難する参集訓練をトランシーバーで通信訓練を行いながら実施し、第2部では、消防の指導による、「AEDを利用した救命救急訓練」、「三角巾を利用した被災者対応」、「ロープワーク」、「消火器を使った初期消火訓練」に加え、起震車による地震体験、介護業者による介助・介護用具の体験会、防災用品の販売会社に協力していただいた防災用品の展示会・試食会、消防車両の展示会、鎌倉市の防災職員の案内で防災倉庫の見学会などを行いました。参加者は250名ほどでしたが、もっと多くの方に参加してもらえ工夫が必要です。

■今後の課題と展望

大規模災害の発生直後に一番大切なことは、自分で自分の身を守ることです。自分や大切な人を守るために、様々な場合を想定して、必要なものを準備する必要があります。しかし、しっかり準備をしていたとしても、家具や家屋の倒壊など自分の力だけではどうにもならない時、消防や警察といった公助が期待できない中、重要なのは共助と言われる隣近所や自治町内会などでの助け合いだと考えています。

また、運悪く被災者となることを余儀なくされた時、少しでも避難所生活を快適にするためにも、やはり共助が大切です。関小ブロック防災協議会では、今年3月に「関谷小学校避難所運営マニュアル」を策定しました。避難所となる小学校に避難してくるのは、必ずしも地域の方たちだけではありません。実際の被災時には様々な問題が起きると思われませんが、地域の実情に即した避難所ルールを予め決めておくことは、ベターな選択だと考えます。

鎌倉市の中では小学校ごとに避難所マニュアルを作成しているブロックがありますが、数はまだ多くありませんし、作成している地域同士の連携も図られていません。津波の被害が想定されている地域と、住宅密集地などで火災が深刻な脅威となっているところとでは対策も異なるはずで、今後は、地域ごとの問題や情報をできるだけ全体で共有し、対策を講じて行く必要があります。また、関小ブロック防災協議会で情報共有ツールとして使用しているデジタルトランシーバーが混線等で使用できない場合の連絡手段などもしっかり考えておく必要があります。

自助のための準備、共助のための準備をしっかりとしていくためにも、我々住民は、行政が何をできるのか知り、何をしたいのかを伝えて行かなければなりません。公的機関や民間業者、医療機関などとの協定を行政が主導して整備し、自治町内会はそれぞれの地理的、人的条件等に則した防災計画を立案し、地域で一体となって災害対策を繰り返し行っていく。そして、地域で協力してできること、公的機関でなければできないことをしっかりと見極め、自分や大切な人の命を守るための防災対策を進めて行きたいと考えています。

■最後に、

いくら対策を講じても想定を超える被害はきっと起きると思います。いざという時に助け合える環境をつくるためには、隣近所とのお付き合いや、地域イベントなどに積極的に参加することで、顔見知りを増やすことがとても重要であり、このことは水や食料などを備蓄することと同じくらい大切です。人と人とのつながりを大事に、地域で一丸となって災害を乗り越えて行くことが必要だと思います。地域に住む人すべてが顔見知りになれる社会を築いていくことを進めて行きたいと思います。

関小ブロック防災協議会 運営委員長
城廻自治会 防災保全部長
城廻自主防災隊隊長
鎌倉市「防災だより」企画編集委員
神奈川県立鎌倉養護学校 福祉避難所設立準備委員
防災士 江上 健